

# 「教育データの利活用」 の視点で見通す 学校教育のこれから

GIGAスクール構想によって1人1台端末の整備がほぼ完了し、全国の自治体や学校は、ICTを活用した学習者主体の教育への変革に動き出した。子どもの学習記録や成績、教員の指導履歴などの教育データの利活用は一層進み、今後、デジタル技術を活用した「教育DX（デジタルトランスフォーメーション）」が推進されていく。教育データの利活用によって、子どもの学びや教育活動は、どのように進化していくのか。文部科学省の担当者や国立教育政策研究所の専門家による解説と、2つの自治体が進める教育データ利活用の先進事例、そして、全国の自治体をつなぐ研究会の取り組みから、学校教育のこれからの姿を見通していく。

## 各立場における教育データの利活用の将来イメージ

### 子ども

- いつでも、どこでも、誰とでも学べる
- 自分らしく学べる
- 個に応じた支援が受けられる



### 学校・教員

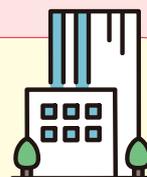
- 学級・学校経営、生徒指導に生かす
- 教育関係業務の効率化
- 指導計画・授業準備に生かす
- 情報交換のプラットフォーム



データがたまる・つながる  
あらゆるコンテンツがつながる

### 教育委員会、行政・研究機関

- プッシュ型の支援
- EBPM\*による政策改善・制度設計
- 効果的なカリキュラムや指導法の開発
- 優良事例の横展開
- 新しい知見を学習指導要領の改訂に反映



※デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省「教育データ利活用ロードマップ」（2022年1月）を基に編集部で作成。

\* Evidence-based Policy Making の略称。政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化した上で、合理的根拠（エビデンス）に基づくものとする。